

# ALB BiH NFFIS & NbS for DRR/Eco-DRR Newsletter

–アルバニア国 国家森林火災情報システム（NFFIS）と自然を基盤とした解決策を通じた災害リスク削減（NbS-DRR）実施能力向上プロジェクト  
 –ボスニア・ヘルツェゴビナ国 国家森林火災情報システム（NFFIS）とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

プロジェクト実施期間: 2024年6月～2029年6月

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS及び生態系を活用した防災・減災（NbS for DRR/Eco-DRR）の導入を通じて強化されることです。

Vol. 4では、2025年7月-12月の活動を報告いたします。

## アルバニア 最新ニュース!



### 第3回技術調整グループ（TCG）会議の開催：

2025年11月12日、ティラナにて第3回TCG会議が開催され、国内の主要機関とJICA専門家チームが一堂に会しました。国家市民保護庁（NCPA）が議長を務めた本会議では、アルバニアの防災能力強化に向けた進捗状況や技術調整、今後のアクションプランに焦点を当てた議論が行われました。前回のTCG会議以降、国家森林火災情報システム（NFFIS）の開発、およびボビラ貯水池集水域における「自然を活用した解決策（NbS）」の両面で大きな進展があったことが共有されました。



第3回TCG会議

### NFFIS開発の本格始動（キックオフミーティング）：

2025年11月13日、NFFISコンポーネントのキックオフミーティングが行われ、本活動が正式にスタートしました。会議では主要関係者が集まり、目標やタイムライン、今後の計画を確認しました。JICA専門家チームと開発業者は、システムの機能、技術要件、データソース、報告項目など、NFFIS構築に向けた詳細な意見交換を行いました。特に、早期警戒、火災監視、シミュレーション、被害評価、および全関係機関における事故報告様式の標準化の重要性が改めて強調されました。



NFFIS キックオフ会議の様子

### ボビラ貯水池集水域でのNbS実証活動：

ボビラ貯水池集水域では、ボビラ貯水池への土砂流入を防ぎ、水の濁りを抑えることを目的としたNbSの実証事業を進めています。本計画では、比較的大きな溪流にはフトンカゴによる護岸工や谷止工を、小さな谷や斜面には規模に応じたフトンカゴないしは編柵による床固工や、山腹基礎工としての編柵工を設置します。これらの構造物と併せて、木本や草本による植生回復も実施します。例えば、植栽する木本植物についてはアレップマツ、ローズマリー、ケードネズ、レダマといった耐乾燥性の在来種を、1ヘクタールあたり2,500本の密度で植栽します。現在は地域住民との協議や委託業者との契約交渉を進めており、2026年初頭に着工する予定です。



ボビラ貯水池でのNbS 活動の様子

# ボスニアヘルツェゴビナ 最新ニュース!



## 成果1：NFFISの設計から実行へ

国家森林火災情報システム（NFFIS）は、設計段階から本格的な運用準備へと着実に移行しています。技術調整グループ（TCG）において基本コンセプトとシステム設計が合意されたことを受け、現在はその設計を実際の稼働システムへと落とし込む作業に注力しています。並行してNFFISの運用手法（メソドロジー）も最終化され、計画から実装への移行をさらに後押ししています。プロジェクトスケジュールに沿って準備が進んでおり、合意された設計を統合的なシステムフレームワークへと構築していくこのプロセスは、概念化から実用化に向けた重要な節目となります。

## 成果2：Eco-DRRによる洪水備えの進展

洪水対策において大きな進展がありました。RRIモデル（降雨・流出・氾濫モデル）を用いて開発されたジェリエズニツァ川流域の洪水シミュレーションモデルが完成し、その妥当性が確認されました。また、カウンターパートを対象に、シミュレーションモデルの開発と結果の可視化に関するRRI技術研修を実施し、システムを効果的に活用するためのスキル習得を支援しました。シミュレーションの結果は、洪水氾濫の過程を裏付けており、現在はシミュレーション結果を活用し、パイロット自治体であるイリジャ市およびイストチナ・イリジャ市における洪水浸水想定区域図と洪水避難地図の作成を進めています。



RRI 技術研修の様子

また、各自治体の担当者との協議を通じて、地図のコンテンツ、縮尺、レイアウトを定義するとともに、浸水リスクの高い場所、避難経路、安全な避難所、および要配慮者グループの特定を行いました。現在、これらの自治体と密接に連携しながら、洪水避難地図のドラフト作成・修正を進めています。

並行して、効果的なEco-DRR（生態系を基盤とした防災・減災）活動を検討するため、ステークホルダーとの協議や現地調査を実施しました。その結果、上流域や支流における土砂流出と河岸侵食が主要な課題として認識されました。現在、Eco-DRRパイロット活動の候補地を精査しており、具体的な対策内容や実施場所については、次回のTCG会合にて協議・合意される予定です。



イリジャ市、イストチナ・イリジャ市と洪水避難地図の準備



トルノボ市との会議の様子



現地踏査の様子



**NbS (Nature based Solution)** :自然を基盤とした解決策  
**Eco-DRR (Ecosystem based Disaster Risk Reduction)** :  
災害リスクを軽減するための生態系の持続可能な管理、保全、回復  
**TCG(Technical Coordination Group)** : 技術調整グループ  
**RRI model (Rain fall –Runoff-Inundation model for flood simulation)** :  
降雨(Rainfall) – 流出 (Runoff) – 氾濫 (Inundation) モデル



**Facebook**  
フォローください!